

PRAEVIDENTIA DAILY (7月22日)

昨日までの世界：ロシアに批判が集中するが、為替市場はまちまちな動き

先週金曜は、マレーシア航空機撃墜問題・イスラエル問題（ガザで地上戦開始）について特段好材料があった訳ではなかったが、米株価がV字型反発を見せたことから、前日に米株安と共に下落していたブラジルリアル、南アランド、トルコリラなどの新興国通貨を始め、主要通貨では豪ドルやNZドルが反発し、前日の下落分を取り戻したかたちとなった。カナダドルは米株高を受けたリスクオフの後退に加えて、カナダ6月CPI前年比が総合+2.4%、コア+1.8%といずれも前月および市場予想を0.1%ポイント上回ったことから一時急上昇したが、その後は利食いも持ち込まれ上昇幅は縮小して引けた。ドル/円も米長期債利回りと共に反発したが、米長期債利回りの反発が鈍かったことから、ドル/円も前日の下落前の水準を回復しなかった。なお、ユーロ/ドルは一時1.3491ドルへ下落し、6月ECB政策理事会での各種緩和策発表後の安値を更新したが、下落トレンド再開には至らなかった。

本邦休場の昨日は、マレーシア航空機撃墜問題について、国際社会のロシアに対する圧力が高まる中で、世界的に株価が再び軟調となり、長期債利回りが低下するなど、リスク回避的な動きとなった。もっとも、為替市場はまちまちな動きで、ロシアルーブルや豪ドル、そしてユーロやポンドといった欧州通貨が軟調だった一方、通常はリスク回避で下落する傾向がある他の新興国通貨では南アランド、トルコリラ、ブラジルリアルなどは上昇している。ドル/円も、米長期債利回りは低下したにも拘らず101円台半ばへ強含みとなっている。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化(21日)

通貨ペア	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.1	+0.01	+0.01	+0.00	-0.01	-0.01	+0.00	-0.2	+0.0	+1.4	+0.5
通貨ペア	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株価
ユーロ/ドル	+0.0	-0.02	-0.00	+0.01	+0.01	-0.01	-0.01	-0.7	-0.2	+0.5	-0.01
通貨ペア	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.1	-0.02	-0.01	+0.01	+0.01	-0.00	-0.01	-0.3	-0.2		
通貨ペア	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.2	+0.03	+0.05	+0.01	+0.03	+0.01	-0.01	-0.2	-0.2	+0.3	
通貨ペア	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.0	+0.02	+0.03	+0.01	+0.02	+0.01	-0.01	-0.2	-0.2	+0.3	
通貨ペア	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.0	+0.01	+0.01	+0.00	+0.01	-0.01	-0.03	-0.2	+1.4	+0.3	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化(18日)

通貨ペア	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.2	+0.03	+0.03	+0.00	+0.03	+0.04	+0.01	+1.0	-1.0	-0.1	-0.6
通貨ペア	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株価
ユーロ/ドル	-0.0	-0.03	+0.01	+0.03	-0.03	+0.01	+0.04	+0.1	+1.0	-0.6	-0.03
通貨ペア	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.1	-0.03	+0.01	+0.03	-0.05	-0.02	+0.04	+0.2	+1.0		
通貨ペア	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.4	-0.04	-0.00	+0.03	-0.07	-0.03	+0.04	+1.0	+0.2	-0.2	
通貨ペア	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.2	-0.05	-0.02	+0.03	-0.09	-0.06	+0.04	+1.0	+0.2	-0.2	
通貨ペア	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.3	+0.01	+0.03	+0.02	+0.01	+0.04	+0.02	+1.0	-0.1	-0.2	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

主要通貨ペアの前週比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化(先週1週間)

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.0	+0.03	+0.03	-0.00	-0.04	-0.04	+0.01	+0.5	+0.3	+2.3	-0.0
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株価
ユーロドル	-0.6	-0.02	+0.01	+0.03	-0.01	-0.05	-0.04	+0.4	+0.5	-0.0	-0.09
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-0.0	-0.02	+0.01	+0.03	+0.00	-0.03	-0.04	+0.5	+0.5	+0.6	+0.1
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-1.4	-0.08	-0.05	+0.03	-0.08	-0.11	-0.04	+0.5	+0.5	+0.6	+0.1
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンドドル	-0.2	-0.03	-0.00	+0.03	+0.01	-0.03	-0.04	+0.9	+0.5		
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	世界株価	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	-0.0	+0.06	+0.03	-0.03	+0.02	-0.04	-0.05	+0.5	+0.5	+2.3	+0.1

(注) 為替相場、株価および商品価格は前週比変化率、金利は前週比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：米国のインフレは地政学リスクに勝てるか

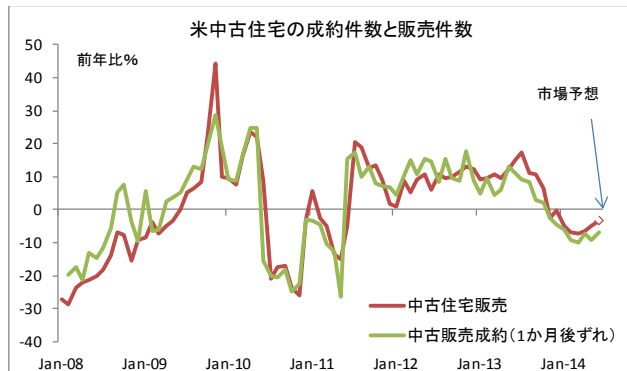
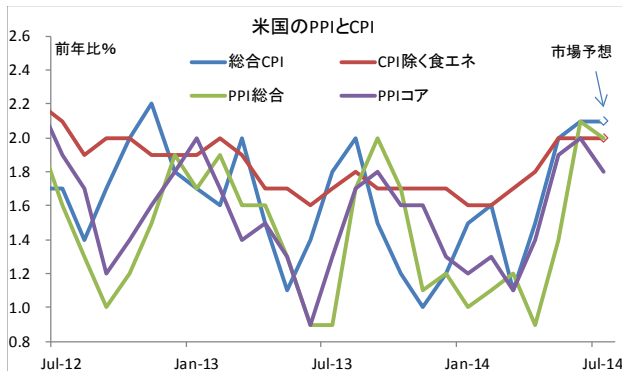
きょうの注目通貨：AUD↓、USD/JPY↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
Debelles・RBA 総裁補発言	8:25			金融市場担当
Stevens・RBA 総裁発言	12:00			
英6月公的部門純借入額(除く金融支援)	17:30	133億€	105億€	
英7月CBIサーベイ・総受注	19:00	11	8	
米6月総合CPI前年比	21:30	+2.1%	+2.1%	
同コアCPI	21:30	+2.0%	+2.0%	
米6月中古住宅販売件数	23:00	489万件	499万件	

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日は米CPIが注目だ。FedはコアPCEデフレーターを重視しているとはいえ、大まかな方向性はCPIも似ており、コアPCEデフレーターよりも先に発表されるCPIの注目度が高まっている。CPIは4月以降持ち直しが続いた後、今回6月分は総合、コア共に前月からの横ばいの予想となっているが、CPIと概ね連動し既に発表されているPPIをみると総合、コア共に前月から低下しており、CPIもどちらかという下振れリスクが大きく、米CPIはドル下振れリスクとなる(下図を参照)。他方、中古住宅販売は増加が予想されており、これは既に発表され先行性がある中古住宅販売成約件数の前年比持ち直し傾向がと整合的だ(下図を参照)。このため、米経済指標はドルに対してまちまちのインパクトとなる見込みで、ドル/円に対して強い方向性を与えないだろう。ドル/円は引き続きレンジ内推移だが、地政学リスクもあって上値が切り下がる中、バイアスは下方向だ。

豪ドルについては、RBA高官(金融市場担当のDebelles総裁補とStevens総裁)が最近の豪ドル高について牽制を強めるかが注目される。RBAは豪州景気について慎重な見方を維持しており、今後の景気下支えのために豪ドル安が必要と考えていることから、豪ドル高牽制を強め豪ドルが下落する可能性が高いとみられる。逆に、豪ドル高牽制が強まらない場合には豪ドルが反発するリスクがある。



**ディスクレイマー**

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社  
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号  
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641